

【p 108～p 113】 樽見の大桜

1 資料活用にあたって

- 写真をプロジェクターで拡大して映すなど、資料提示の工夫をすると、子どもたちは共感的に疑似体験しやすく効果的である。
- 内容項目のD（20）では、自然環境と人間とのかかわりから、人間も自然の中で生かされていることを考え、人間と自然や動植物との共存の在り方を積極的に考えることが大切である。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：ぼく（子どもが「ぼく」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：不定根、さん橋についてのおじさんの話
- 変化するところは：目の前の桜が、今までとはまったくちがうもののように見えました。

3 読み物資料の素材について

【参考URL】

- ・ 樽見の大桜の見学（養父市HP内）
<https://www.city.yabu.hyogo.jp/soshiki/kyoikuiinkai/shakaikyoiku/1/4/tarumi/6323.html>
- ・ 樽見の大桜（やぶ市観光協会HP内）
<https://www.yabu-kankou.jp/sightseeing/tarumi-sakura>
- 樽見の大桜について
 - ・ 但馬には桜の名所がたくさんある。その中でも、但馬を代表する立派な桜が「樽見の大桜」である。毎年、一万人もの人々が見学に訪れるという。
 - ・ この桜は養父市大屋町樽見字ケジメ85番地にある。平成18年4月に統合されたが、この桜を校区にもつ口大屋小学校の校歌では「ケジメの山の大桜」と歌い継がれてきた。昭和26年6月9日、「樽見の大ザクラ」という名称で、国指定天然記念物になった。
 - ・ 樹齢は1000年といわれているが、実際の樹齢はわからない。
 - ・ 幹周りは6.3メートル、樹高は13.8メートル、枝張りは東西15メートル、南北21メートルある。
 - ・ 昭和57年頃から衰弱が目立つようになった。そこで、兵庫県樹木医学会が中心となって次の①～⑤の「治療」を始めた。
 - ①幹の中が空洞になっていて、樹木が重量を支えきれないようになってきたので、ジャングルジム形式の支柱で支えた。
 - ②枯れて腐った枝を切った。切らないとそこから腐れが広がるからである。
 - ③土壌改良として、肥料をやった。
 - ④幹の周囲に人が入らないようにするために柵を作った。人が歩くと根を弱め、土が固まることによって、根の呼吸がしにくくなるためである。
 - ⑤もっとも樹勢を回復させた「不定根」である。これは、幹から出る細いひげ根である。ここから新しい養分を吸い上げて木を元気にした。
 - ・ 平成11年に大桜の種を400粒集めて、口大屋小学校で育てることにした。平成13年に子ども達と一緒に20本の桜を植えた。樽見の大ザクラの子どもを、大ザクラの近くに植えたことになる。

4 展開の具体例

- ・主 題 名 ・自然との共存 D (20)
- ・資料の概要 ・延千年の間、桜の花を咲かせている「樽見の大桜」。その桜は、多くの人に支えられていることによって咲き続けている。樹木医である宮田さんと地区のみんなの協力や努力によって、一度は枯れそうになった桜が元気になってきていることを知った主人公は桜が今までと違って見える。
- ・ね ら い ・桜の木を世話する人たちについての話を聞いて道徳的に変化するぼくを通して、自然の偉大さを知り、自然環境を大切にしようとする道徳的实践意欲を育てる。
- ・展開の概要

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P110の写真（樽見の大桜）を見ましょう。
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・満開の大桜の前でおじいさんとたたずむ主人公の気持ちを考える。 ・おじいさんから、たくさんの人の支えがあったことを聞かされた時の主人公の気持ちを考える。 ・おじいさんから不定根や枝橋などの話を聞いた後の主人公の気持ちを考える。 ・植樹を終え、若い桜と大桜を見ている主人公の気持ちを考える。 	<p>姿を現した満開の大桜の美しさに息をのみ、しばらくたたずむ ぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・千年間もこんなに美しい花を咲かせ続けるなんてすごいな。 ・自然の力ってすごいな。 <p>「あの桜は、実はたくさんの人に支えられて、ああしてきれいな花をさかせとるんだで」というおじいさんの話を聞いた時、ぼくはどんなことを思ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えっ、花は自然に咲いているんじゃないの？ ・人が何を支えてきたのだろう？ <p>目の前の桜が、今までとはまったくちがうもののように見えた ぼくは、どんな気持ちだったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの時代で世話をし続けた人たちがいたからこそ、こうして美しい花を咲かせているんだな。 ・この木を愛した人たちの思いが、木につまっているんだな。 ・この木のすごい力と人々の努力がひとつになって、きれいな花が咲いているんだな。 <p>植樹を終え、今植えた若い桜とつばみをたくさんもった大桜をいつまでも見ていた ぼくは、どんなことを考えていたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜の命が受け継がれていくんだな。 ・世話をし続けた人たちの思いを今度は僕たちが支える番だ。 ・ぼくたちの子どもや孫にもこの美しい桜をみせたいな。
終 末	・自分の考えを書く。	自分の考えを道徳ノートに書きましょう。

主人公が大桜の前にして、「自然の偉大さ」については意識していることをおさえる。

大桜と人間とのかかりについて、主人公が興味を持ち始めていることをおさえる。

不定根や枝橋についてのおじいさんの話がきっかけとなり、主人公に「人間と自然との共存」という意識が起きていることをおさえる。

若い桜と大桜を見ている主人公が、「自分も大桜を未来に残せるよう守っていこう」という自然環境を大切にする実践意欲を強めていることをおさえる。